

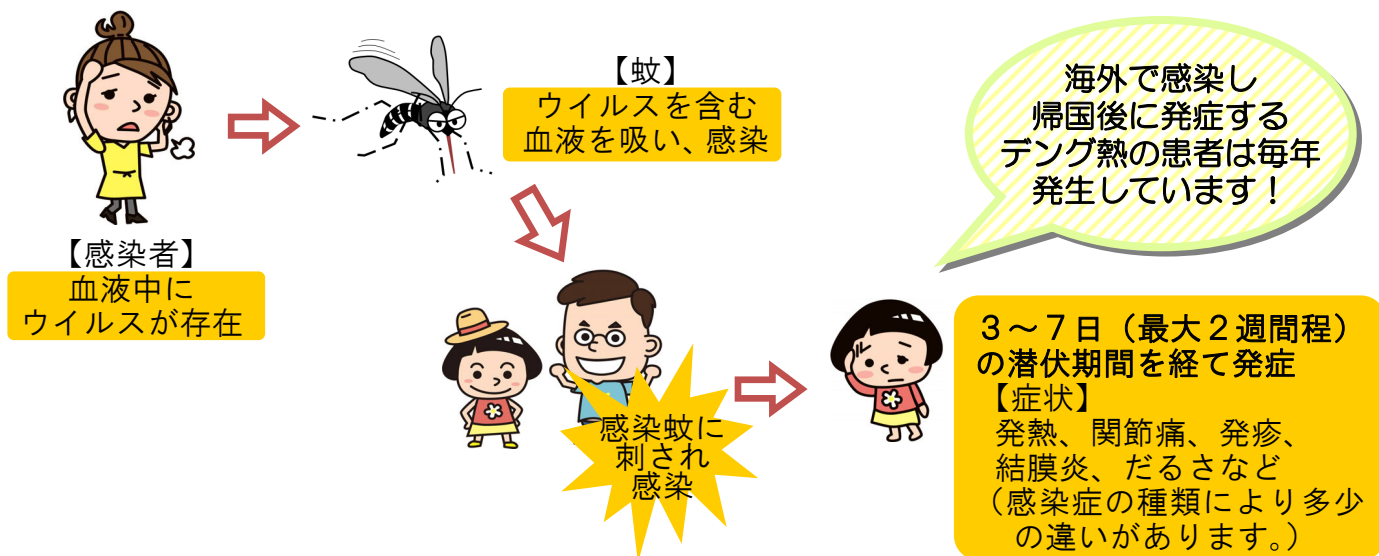
東南アジア、南アジア、
中南米地域などで
流行中！



蚊が媒介する 感染症を 予防しよう

◆ 蚊が媒介する感染症とは

デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症（ジカ熱）、マラリア、黄熱、日本脳炎、ウエストナイル熱 など



- ※ 一部の感染症（デング熱、ジカ熱など）は、予防接種（ワクチン）や治療薬がありません。
- ※ ジカ熱は、人から人への感染（性行為感染や妊娠中の胎内感染）も起こり、胎内感染した胎児には先天性の障害（小頭症）が生じることが報告されています。

◆ 海外旅行時に注意すること

蚊に刺されない

- 肌を露出しない
（できるだけ長袖・長ズボンを着用）
- 素足でのサンダル履きは避ける
- 虫よけ剤、蚊取線香などを使う
- 蚊帳（かや）や網戸を使う など

妊娠中の人や妊娠を希望する人は 渡航を控える

ジカ熱が発生している地域*への渡航は、
できる限り控えましょう。

※ 東南アジア、中南米、カリブ海諸国 など

屋内でも油断大敵！

【虫よけ剤（忌避剤）の使用ポイント】

- 有効成分「ディート（DEET）」や「イカリジン（ピカリジン）」が含まれるものを選ぶ
- 年齢に応じた用法用量、使用上の注意を守る
- 首、耳、手の甲、足首などの小さな部分も忘れずに塗る
- 水や汗により効果の持続性が落ちるため、こまめに塗り直す
- 日焼け止めを使う場合は、その上から虫よけ剤を塗る

◆ 帰国後に注意すること

感染を広げない

- 感染している人が日本に生息する蚊（特にヤブカの種類）に刺されると、他の人に感染が広がる場合があります。
- 血液などを介した感染が起こる場合もあります。

帰国後は・・・

- 蚊に刺されないように注意する（帰国日から2週間程度）
- 献血を自粛する（帰国日から4週間）
- もしも具合が悪くなったら、市販の解熱鎮痛薬などは服用しないで*1、すぐに病院を受診する*2。

※1 解熱鎮痛薬の種類によっては、症状を悪化させることがあるので、医師の指示に従いましょう。

※2 問診では、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無などを医師に伝えましょう。
症状が治まるまでは不要な外出を避け、蚊に刺されないように特に注意して過ごしてください。

加えて・・・

- ジカ熱流行地から帰国した男女は、症状の有無に関わらず、最低6か月間（パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中）は安全な性行動（コンドームの使用）をとるか、性行為を控える。
- ジカ熱の流行地から帰国した女性は、症状の有無に関わらず、最低6か月間は妊娠を控える。

感染しても症状が出ない、又は出るまでに時間がかかる場合があるため、無症状でも注意しましょう。



★ 旅行前に…
渡航先で流行している感染症をチェック!! ★

【厚生労働省検疫所】 FORTH

<https://www.forth.go.jp/index.html>

【外務省】海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>

渡航先をクリック！

更新：令和5年5月